

# 「揖保川を語り、生かす集い」龍野会場 結果概要

日時：平成15年5月18日(日)(14:00~16:30)

場所：龍野市 龍野市青少年館 ホール

参加者：委員12名、発表者12名、河川管理者12名、一般参加者185名

## 1. 開会

開会挨拶 藤田委員長

## 2. 揖保川流域委員会について

「河川整備計画について」 国土交通省姫路河川国道事務所 那須所長

「揖保川流域委員会の活動状況について」 藤田委員長

## 3. 住民からの意見発表

伊沢 力氏(揖保川町)

- ・片島井堰は昭和40年の集中豪雨により流失し固定堰として復旧したが、その後も昭和51年、昭和52年と災害があり、その度に復旧のための改修を行っている。平成10年には片島用水樋門を改修し、さらに平成13年には、固定堰の上流側が深堀され、土嚢を埋め込むことにより応急処理しているが、堰の下流は深掘りされたままの状況である。堰全体が沈下するおそれがあり、川底の整備ならびに上流側の整備をお願いしたい。
- ・揖保川町正條地区に畳堤があるが、昭和51年、平成2年の洪水で水位が上昇し、堤防天端まで水位が上がり、道路を封鎖したこともある。この堤防付近は、道幅も狭く、特殊堤の改修をお願いしたい。
- ・揖保川町のJR鉄橋から馬路川排水機場のところまでの間に、河川敷を活用したサイクリングロード、釣り場等を含めた、水に親しめる護岸整備をお願いしたい。

伊藤充弘氏(龍野市、たつの夢くらぶ)

- ・毎年8月に行われる龍野市の花火の日に「揖保川ふれあい清流祭」を実施し、スポーツ団体など地元のいろいろな団体の方が参加されて模擬店を出している。この模擬店の前に「揖保川清流祈願祭」ということで、行政の方にも参加いただいて龍野神社の神主さんに来てもらって(河川敷で祭壇を組み)御祓いをし、清流が末永く続きますように、災害のないように、ということをお祈りしている。揖保川の清流に感謝する気持ち、自然を一つの神様ととらえた意識、自然に対する感謝の気持ちが表れるようなまちづくり、人づくりができればと考えている。昔からある揖保川の自然に感謝の気持ちが持ち続けられるようなイベントや、仕掛けをしていただきたい。

井上良三氏(揖保川町)

- ・平成14年度から県道龍野龍野停車場線の野田橋から龍野新大橋までの間で道路改良工事が実施されている。山陽自動車道が揖保川を横断している高架付近の左岸には高水敷の整備がなされ、そのために、流水の方向が右岸の方に向かっている。洪水時には右岸の堤内地において漏水等も見られるような状況なので、住民としても心配している。道路の工事と関連して、この対策についても調査をしていただきたい。
- ・揖保川町には、河川敷にきらめきスポーツ公園が整備されており、この公園付近は道路がカーブしている。そのカーブのところの護岸に階段工を設置していただいているが、小、中、高校生がサッカー等で利用するときには、その階段工は観覧席として利用されている。脱輪等によ

り自動車、河川敷の方へ落ちてくれば大変な事故になると思うので、防護柵を設置していただきたい。

#### 川端英武氏(太子町)

- ・人間と川とはいろいろな面で、全体の「調和」が大切である。川の持つ機能、人間の要求する機能、あるいは自然界全体としての調和の一つの姿があるはずである。川には豊かな情操のきずながあった。そこには自然の部分が多分にあり、まさに川は生きた状態であった。「ゆく川の流は絶えずして」という方丈記の冒頭文、唱歌の「春の小川」や「めだかの学校」に思い出される日本人的感性を育ててくれたのが川だった。川は人の体で言えば動脈のようなもので、海は心臓、太陽はその拍動源のようなものではないか。水に伴う一連の循環が自然として譲り合った環境を形成し、多くの生命を育てており、人間もそれに参加しているにすぎないということである。
- ・揖保川は、これまでの治山、治水、利水を中心に現在の状態を保全・管理しながら、さらに、中国山地の源流から瀬戸内の河口までに揖保川が失ったものを徹底的に調査し、それを復元する、あるいは補うべく、揖保川自然流水をつくってほしい。
- ・縦割り行政が邪魔になることもあるかと思うが、それら乗り越えて活動してもらえる組織をつくってほしい。

#### 木村俊二郎氏(龍野市出身)

- ・揖保川には「畳堤」と「桜づつみ」がある。畳堤はラジオ番組でも取り上げ話題になっており、桜づつみ(龍野市)は第1期の桜づつみ事業として整備されたもので、日本でもこれだけりっぱなものはないと思えるほど自慢できるものである。しかし、その後揖保川は元気がなくなった。
- ・非常に悪い例が「水辺の楽校」である。昔、揖保川で遊んでいた時代に河川敷にグラウンドはなかったはずだが、サッカー場に芝生が生えていない中途半端なグラウンドになっている。また、春の七草園、秋の七草園、タンポポ園などあるが、春の七草園はほとんど枯れてなくなり、秋の七草園には園芸品種のカワラナデシコが咲いており、タンポポ園はなくなっている。
- ・他の河川では、水と陸との移行帯、境目のところが問題になっており、そこを大切にしようという運動が起こっている。これは植物、魚等にとって非常に大切な場所だが、揖保川町の水辺の楽校ではその水陸移行帯が大変な状態になっている。
- ・揖保川を川らしい川にしていっていただきたい。川らしい川に必要なのが洪水で、出水があり、植物が攪乱を起こし、また新しい河原ができるという状態がなくなっている。揖保川の場合、水のコントロールはあまりしていないように思うが、攪乱をどうして起こすかということは重要な問題である。
- ・もう少し川ににぎわいを取り戻していただきたい。揖保川せせらぎ公園の向かいの中州には、野鳥が大変たくさん集まっている。ここはすばらしい場所で、この場所を何とかもう少し観察できるように、あるいは河原をつくるような状態にしていっていただきたい。
- ・河川敷はグラウンドにしないで、原っぱ、広っぱであるだけで十分だと思う。

#### 鈴木敏盛氏(揖保川町)

- ・馬路川は揖保川の支流で、県の管理河川だが、河床勾配が非常に緩く、揖保川の河床も高いため、出水の際は内水による浸水のおそれがある。昭和51年の集中豪雨では住宅の床上、床下浸水や、道路、農地等の冠水による甚大な被害を被った。この対策として、計10トンの排水ポンプを設置していただいたが、最近では、市街化区域内の正條地区において、区画整理事業が完成し、マンション、アパートの建築が著しく進んだため、従来あった遊水池、田んぼ等が減少し、以前のような集中豪雨があれば、必ず床上浸水のおそれがあると懸念している。また、国道2号以北の雨水排水がスムーズに行えるように幹線水路の整備を順次行っているため、以前のような豪雨があると、短時間のうちに排水機場周辺に雨水が押し寄せる可能性がある。当

初計画は毎秒 20 トンの排水が必要ということだったが、今は 10 トンしかなく、できるだけ早く排水ポンプの増設をお願いしたい。

曾谷 實氏(揖保川町)

- ・栗栖川と揖保川の合流点に設置されている半田井堰は、昭和 45 年の台風により流失し、その後、固定堰を復旧し、現在に至っている。ここには用水樋門が上流側と下流側に 2 門あるが、上流側の樋門は洪水時の閉鎖作業に管理用道路もなく非常に危険である。また、揖保川はこの用水側に向かって流れており、洪水時には水路が土砂で埋まってしまうような状態である。半田井堰周辺の未改修の堤防を早期に築堤され、それに併せて樋門の改修を実施していただきたい。

武内憲章氏(龍野市)

- ・市街地における引堤事業についての図面がチラシに載っていたが、いくら任意に作成したものであるとは言え、代替案が示されていなかったことは残念である。引堤事業の計画地に住んでいる人、あるいは事業をやらされる会社もあり、そういうところにいたずらに不安を与えるだけではないか。また、龍野にとっては宝物というべき堀邸とクスノキがあり、そういうものが失われるのは非常に残念に思う。何とか代替案を考えていただきたい。
- ・洪水時の水を流すために、川の断面積で流量を考えておられるが、一方で河川敷の整備をしている。国、県、市が連携をとり、ちぐはぐなことにならないように、いろいろな事業を進めていただきたいということを、提言の中に盛り込んでいただき、安全のため、または河川、自然に親しめるような、今後 20 年～30 年先の揖保川のビジョンをつくってほしい。
- ・今後 20 年～30 年先の揖保川のビジョンを考えると何を優先させるのか。100 年に一度の大水のときを考えて、安全を第一ということで考えるならば、河川敷やいろいろな施設を放棄してでも安全を考えないといけなかもしれないが、むしろ災害時よりも通常の時を大事にするというのであれば、グラウンドや河川敷の整備をして、もっと川と親しむようなかたちで事業を進めていただきたい。
- ・環境問題において、自然ということがよく問題にされるが、自然というのはあくまでも人に対しての自然ということなので、自然との調和をとりながら今後の事業をしていただきたい。

武内 智氏(揖保川町)

- ・揖保川では河川工事によって川が泥で埋まっている。これまで国土交通省も河床を触られたことがないと思うが、そういったことができるのか、できないのか。できないなら、なぜできないのかという答えを出していただきたい。
- ・揖保川はきれいな水が流れていると確信を持っている。都市部で飲む水と揖保川の水とは大きな違いがあると思われる。こういうきれいな川を維持していくために、国土交通省のお力をいただき、地域住民を含めて川を守っていかなくてはいけない。
- ・中州に流木が根づき、川の流れを妨げている。景観等にも配慮してこれらの除去ができないか考えていただきたい。

西本謙一氏(揖保川町)

- ・揖保川町の宝記井堰は、昭和 32 年に新しく設置してから長い期間が経っており、今後の揖保川改修の計画に併せて、ぜひ井堰の改修をお願いしたい。宝記井堰は揖保川の水が増水すると堰が自動的に倒れるようになっており、それが起き上がり、水田に水が引けるようになるまでに 1 週間から 10 日ほどかかる。洪水防御のために川幅は広げられないが、河床を下げる計画があると聞いたが工事される様子はない。河川改修時に是非新しい堰をお願いしたい。

橋本梅子氏(龍野市、もりのたまご館)

- ・揖保川では、流域全体を考えた河川工事ができればと思う。その工事は部分的にするのではなく、揖保川の観光コースが生まれるべく改修され、しかもそれが住民参加によって行われればよい。その手段として、工事後に生まれる景観のシミュレーションを利用し、その映像を見ながら住民に提案していただき、みんなでつくる揖保川の観光ルートができればと願っている。(橋本氏の発表は景観シミュレーションの映像の例をスクリーンに映写しながら行われた。)

松原正行氏(龍野市)

- ・東嵯崎井堰は、堰の上流に中州があり、中州の先端から東の方へ固定堰をつくっている。昭和45年の台風後に改修し、30年余り経過しているが、井堰本体はその後の出水などで形状が不整形になっている。これを改良しなくてはならないと同時に、最近になって中州が浸食され始めているということがわかった。この原因を調べたところ、堰の上流の河川敷にグラウンドが造成され、水の流れが変わり、それによって中州の浸食が始まったということなので、これに対しては国の方で工事をお願いしたい。
- ・堰のところにある屏風岩の上から見える中州とその西の方の山並みは見事な風景で、我々はこの風景を次の代に継承していく義務があると思。そういった観点からも、この中州は今のうちに元の状態に戻していただければと要望する。

#### 4. 意見交換

発表者とその他の参加者、委員を交えて意見交換が行われました。主な発言は以下のとおりです。

現在、揖保川の流域下水道は宍粟郡、揖保郡、龍野市を含め70%前後が完成している。下水道が完成するとどの程度水が減水するのかをお聞きしたい。

中州に公園が整備されているが、洪水時には水に洗われ、管理の不行き届きな公園となっている。経費の問題で放置されていると思うが、むだな費用が費やされているのではないかと思う。また、揖保川では清流が回復したが、林田川の汚水はまだ問題点が残っており、考えいただきたい。

揖保川には栗栖川、林田川などの支流が流れ込み大きな揖保川になっている。揖保川を考える場合、その支流の水源地の山のことも十分考えていただきたい。また、林田川は、安富ダムというのができてから、水を使う場合の調節をうまくしていただけて助かっている。支流に小さなダムでよいので、ダムをつくってほしい。

西播磨県民局が主催する「森・川・海のフォーラム」の中で、川の水をきれいにするためには森林が大切で、それにより生物が変わる、海岸部でカキ養殖にとってもプランクトンが出てきていい生産ができるといった話があった。流域委員会とこのような県の取り組みと密度の濃い連携をしていただき、上流から河口までのことを考えていただきたい。

(委員から発表者への質問)揖保川を活用した観光振興とは、従来の観光か、それとも何か新しい意味で提案しているのか。

(回答)下流から上流までをもう一度見直して河川改修し、いろいろなものを連携して観光ルートをつくる。例えば、揖保川を上がってみようというような観光ルートができればよい。

(委員から発表者への質問)長期間を見据えた安全を第一とするか、それとも通常の価値を重視していくのかということに関して、ご意見を伺いたい。

(回答)100年に1度の洪水ということだけでなく、20~30年に1度のスパンでよいと思う。それを選択するのは我々市民であり、それで災害があったときは我々自身の責任になる。

日飼の掘邸の西にあるグラウンド(祇園公園)は洪水を流す断面積を小さくしているので、撤去すべきである。また、嵯崎の上流のグラウンド(新宮リバーパーク)も同様に撤去すべきである。

市街地における引堤事業の図面で、龍野市中心部の東側に赤線、青線が描かれているが、どう

いう根拠か説明してほしい。

(委員による回答)今委員会で検討している河川整備計画の前の計画(工事实施基本計画)で、どれぐらい川幅をひろげれば洪水を処理する上で安全かを示した案である。それが妥当かどうかを今検討しており、検討材料として考えてもらった図である。

岩浦井堰のあたりは、昔は深さが2メートル以上あり、プールのない時代はそこで水泳をし、楽しく過ごした。今は、かなり川底が浅くなっており、河床を深くするとか、グラウンドを撤去するとかの方法をとっていただきたい。

掘邸のところのクスノキがない時代には、やぶで洪水から耐えてきており、そのやぶを外したら一抱え以上の石がぎっしり詰めてあったということである。また、祇園橋が最初に架けられたときは西橋と東橋とがあり、川は西側も流れていた。その西側のところにグラウンドをつくることは自然に反しており、河床をもっと下げること考えるべきである。

昔は、揖保川もきれいな水が流れていたが、山の木を伐採し、ヒノキやケヤキに木の種類が変わってからいい水が出てこなくなった。今から100年ほどかけて、なんとかしていい水が流れ、またいかだ流れ、龍野橋のところ舟を浮かべてというような時代にしてもらいたい。

(委員から発表者への質問)置堤への思いをお聞きしたい。

(回答)引堤により置堤のある左岸側の景観が変わると、置堤のできた原点のようなものがなくなってしまうので、そのあたりの改修は今後検討していくうえで、考えていかなければならない。また、置堤については亡くなられた柳沢忠さんの資料が残っていると思う。この周辺の地域は、旭橋の付け替え運動で住民の方が活動された記録も残っており、非常に川に近い暮らしをされていたのではないかと。それがだんだんと川に近い暮らしがなくなり、今の現状になり、川の中にグラウンドができてしまった。本来の川の姿をもう一度考えていただき、川らしい川をつくっていただきたい。

今、他の河川では上下流交流会とか流域のネットワークというのができつつあり、揖保川にもそういう流域のネットワークをつくってはどうか。防災ステーションという施設があるので、それを利用して活動のすれば非常におもしろいことができるのではないかと。また、中州(龍野大橋付近)は、バードウォッチングなど自然観察の場としては非常に良いのではないかと。場合によっては京阪神から来られる方もいるのではないかと。

水を治めることなどとてもない、人間の英知を超えた大自然に従わなければならない。今の生活は、これまで恩恵を受けてき揖保川に負荷をかけすぎていると思われる。これからは今の生活水準を少し切り下げて、取り組んでいくべきである。人間は、あまりにも便利さに慣れ、浮かれすぎており、ここで大いに反省して謙虚になって取り組む。こういう前提で議論していただければ、子や孫の世代に喜んでもらえる揖保川流域ができるのではないかと。

## 6 . 閉会